



終わりました！ありがとうございました。

第 35 回発表会 2012 年 10 月 20 日（土） 神戸文化大ホール 出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏組
「届ける」「わたしたちの神隠し」「さあ いっしょに」

発表会が終わりました。出演者全員が自分の力を出し切って踊りました。輝ける日であったことを祈らずにはいられません。今回は宮城県気仙沼市の児童養護施設から中学生のお嬢さん二人が来て下さいました。「届ける」と出演者、保護者、教師たちの祈りが彼女らの心に届いたことを願います。

私は発表会の日に学校の文化祭がありました。なので、文化祭は途中でぬけて、急いで文化ホールまでお父さんに車で送ってもらいました。その日は朝からバタバタしていたのであまり発表会という実感がわいていかなかったけど、楽屋に入ると、去年のことなどを思い出して、「今日は本番なんだ」と改めて思いました。私は、去年までメイクはお姉さんにやってもらっていました。でも、今年はもう中学二年生なので、自分でメイクすることに挑戦しました。でも、思っていたより難しく、みんなに「顔がない」と言われました。しかし、お姉さんにアドバイスをもらいだんだん顔ができてきました。はじめはどうなることかと少し不安でしたが、うまくいったので嬉しかったです。リハーサルでは立ち位置や振りなど少しまちがえてしまいました。でも、そのおかげでもう一度見直すことができたのでよかったです。リハーサルが終わって本番がはじまるまでは、あつという間でした。本番はリハーサルとは違う緊張感がありました。でも、踊っているうちにだんだん楽しくなってきました。私なりに踊りに気持ちをこめられたんじゃないかと思えます。来年は今年よりもレベルアップした踊りをお客さんに見てもらえるように、日々の練習をがんばります。

岡田彩花（中2 本部ジュニア）

10 月 20 日の発表会の日は私の中学校の文化祭でした。私は大道具係で午前中のステージが終わるまではぬけられませんでした。だから、リハーサルが始まる直前に楽屋に着きました。リハーサルの出番の間にお化粧をしようと思っていたけどする暇がなく、ノーメイクでリハーサルを踊りました。お化粧は本番直前で出来ました。本番、私は 9 回衣装替えがありました。そのうち 2 回が早替えでした。どちらもうまく行って良かったです。手伝って下さった方々のおかげです。ありがとうございました。本番の踊りは練習どうりに踊れたと思います。発表会が終わって帰る支度をしていると、お腹がペコペコな事に気づきました。私にはめずらしくあまり食べていませんでした。ご飯を食べ家に帰るとすぐに寝てしまいました。あつという間の一日でしたが、東北の中学生にも会えてとても充実した 1 日でした！！稲益夢子（中2 本部ジュニア）

私の学校では 10 月 20 日は文化祭でした。午前中に舞台演劇の部を見て、午後からは展示の部で全校生徒のいろいろな作品を見ていきます。でも、午後からはバレエの発表会なので途中でこっそりぬけさせてもらいました。楽屋に着いてからは、お化粧をして衣装に着替えて、まずリハーサルから始めます。今年、私は初めて花の精という主役をさせていただきました。はじめの方少しだけ、一人だけで注目をあびるので、すごく緊張していました。そのリハーサルをしながら、お化粧を仕上げていくのですが、はじめは少し自分でがんばってみたいけれど、結局プロの方にさせていただきました…。本番では、そこまで緊張することなく踊ることができました。おじぞうさんの踊りの方も、終わったときのすごい拍手がうれしかったです。踊っていてとても楽しかったです！また来年もがんばりたいと思います。穂井田凜（中2 本部ジュニア）

向井華奈子モダンダンスリサイタル 2012 年 11 月 10 日（土） 新神戸オリエンタル劇場

「柘榴」「虚空の底へ」「phenomenon - 私たちという現象」「SAND LOT」「開く」(振付 藤田佳代)
出演 菊原麻理奈 末吉花林 三木涼音 菊原麻衣花 稲益夢子 本田詠理奈 数越慶子 山田麻以 平岡愛理 松浦早希 梁河西 板垣祐三子 灰谷留理子
石井麻子 かじのり子 菊本千永 金沢景子 寺井美津子 向井華奈子
特別出演 堤悠輔 文山絵真 ピアノ演奏 河内仁志

初のリサイタル 無事 幕をおろしました。

初めてのことが多く、多くの不安... 無事に終演できることを祈り続け 幕があがりました。そして 佳代先生 先生方をはじめ多くの方々のお力添えを頂き無事に終演することができました。せっかくですから何か舞台裏のお話を...と考えるのですが さすがに緊張していたのが当日のことはぼんやりとした記憶しかなく...憶えがあるのは幕がおり舞台上で感激の涙を流したくらいです。普段なら舞台から客席のお客さまのお顔を向うこともできるのですが 今回はその余裕すらなく...一生に一度のこの瞬間をすべて憶えていたい！と願っていただけにそこはちょっと悔しい思いです。

プログラムのご挨拶でも申しましたが 今の私にできること それは「踊る」ということです。今回 このような形で舞踊家として今の私を表現できたこと 今まで感じたことのないほどの幸せを感じております。

最後になりましたが 佳代先生 先生方 ダンサー ゲスト スタッフの方々 この会を支えてくださった皆さま そして 510 名もの多くのお客さま すべての方々のおたのしみ 思いに包まれこの会を終えることができました。本当にありがとうございました。どうやらあの日以来 涙もろい体質になってしまったようで...こう書きながらまた感激の涙を流してしまいそうです。

向井 華奈子

今後につながる挑戦と試行

大勢や流行にとらわれず、独特の感性で自己のスタイルを確立している藤田佳代。幹部ダンサーのリサイタルを定期的に開いているのもユニーク。今回は向井華奈子。これまで作品を発表してきたが、リサイタルは初めて。自身の新旧作品、出演者との共同振付、そして藤田佳代の旧作に主演など五作品が上演された。彼女は他のメンバーに比べて、スタイルはオーソドックスであり、新しい動きへの志向も見える。今回もその傾向はあるが、モチーフを重視し、それを個性的な動きと構成で表現するという藤田スタイルへの意識も感じられた。まず『柘榴』。彼女の技術力と表現力のレベルを示す小品。音楽の雰囲気激しく変わった途端に終わるといふ、ダンスの体言止めの形が印象的。次の『虚空の底へ』は、群舞のための作品、吉松隆の日本的な音楽で、全体が四つのパートに分け、向井の音と動きの融合の巧みさを示す作品。『phenomenon』は映像を使い、バロック音楽で現代的な動きにチャレンジした。ゲストの堤悠輔、文山絵真のトリオ。動きはしっかりとその点は見応えはあるが、テーマ表現のための構成に少し工夫が欲しい。次の『SAND LOT』は、砂をテーマにしたオムニバス。若い平岡愛理の自作「ひとつぶの砂」、寺井美津子、菊本千永、かじのり子の幹部の共同振付「砂から」、そして向井の「涙砂の声」。それぞれ文学的或いは社会的な内容を表現しようとしているが、また動きのおもしろさにとどまっている。最後は河内仁志のピアノによる藤田の『開く』。向井の軍帽への思いを表現するソロにはじまり、ベテラン、中堅、ジュニアのグループが彼女の深い思いとは別の次元で動きながら、彼女の意識に迫り、声高ではないが深く反戦をうたう。ここで彼女は、表現力豊かにテーマをしっかりと伝えた。挑戦と試行が見えた次につながる第一回公演だった。

うらわまこと 週刊 オン ステージ新聞 2012年12月7日号

生きづらくなった現代だ。未来も信じにくい。それでも生きたい。そんなたじろがぬ意志を表したリサイタルである。全体の構成が注目に値する。表徴的な『柘榴』に始まり、自己の存在を確認する『phenomenon 私たちという現象』を経て、啓示を予感する『開く』に到達する。これは予言的、黙示録的な俯瞰である。その間を縫って『虚空の底へ』の感傷、『SAND LOT』の無常感をしのばせ、宇宙へも手がかりを求め。知的な香りが残るダンスだった。

今後の予定

創作実験劇場 2013年2月16日(土) 東灘区民センターうはらホール

CARAVAN 真夜中の人形 わたし・わたしはわたしをさがす 遠く 近く もっと近く 徒桜 われたら末は

私の記憶をさがしています わたしのpieceたち 桜 咲くころ Lost 探す

出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 板垣祐三子 灰谷留理子 梁河茜 平岡愛理 山田麻以 谷岡亮

稲益夢子 菊原麻衣花 三木涼音 末吉花林 渡辺菜子 原田光琉

創作実験劇場は毎回テーマがあります。今回のテーマは「探す」です。探す…何を探す?探しているものは何?

CARAVAN 作舞 金沢景子 音楽 ギター演奏 居倉健

今回は関西だけでなく全国的にご活躍されてるギタリスト、作曲家の居倉健さんの演奏で踊ります。昨年、南三陸町にチャリティライブで一緒にしました。彼の曲「CARAVAN」他3曲からイメージをふくらませて踊りにしました。

・昨日の水辺に別れを告げて・明日の風を待ちながら・朝陽と共に歩きだし・たどり着く今ここに

真夜中の人形 作舞 稲益夢子 菊原麻衣花

私達は初めて一つの作品を創作しました。真夜中の人形はフランス人形などのかわいらしい人形ではなくて、ピエロの人形をイメージしました。人間が寝ている間、人形はおもちゃ箱の中で動き出していると思います。操られているのではなく自由に動き回っている二体のピエロ人形の踊りです。時には仲良く、時には仲が悪いところをうまく表現できたらいいなと思います。ピエロは人を楽しませるので私達も観ている人を楽しませられるように踊りたいです。 稲益夢子

私達はとにかく「初めて」だらけだったので苦労したことがたくさんありました。先生方にはたくさんのアドバイスをいただきました。また、普段のレッスンの時間を割いて練習させていただきました。神戸新聞の方から取材をしていただくということでも貴重な経験もさせていただきました。ここまで来ることができたのは、たくさんの方の支えがあったからこそだと思います。本番ではお人形になりきり、感謝の気持ちをこめて踊ります。 菊原麻衣花

わたしー私はわたしをさがす 遠く 近く もっと近くー 作舞 かじのり子

パッと作品を創って、サッと覚えて、きちんと踊れる人をいつも羨ましく思います。羨むばかりで、わたしというものはいったいどこにあるのでしょうか。

昨年の実験劇場本番中、きちんと形のとれた踊りをする るりちゃん(灰谷さん)を楽屋のモニターで ゆみこ(板垣さん)と並んで見ていた時のこと。私がつい「ええなあ、きちんとした踊りができて。」と口走ると、ゆみこが「しょうがないやん。けど、のりちゃんの踊りはのりちゃんにしかできない。」と。なるほど、わたしは私の中にあるのかも知れません。というわけで、いつもは自作品への出演を迷うのですが、今回、私はわたしを踊ろうと心に決めたのです。

徒桜 作舞 灰谷留理子

徒桜とは、親鸞聖人の歌の、「明日ありと 思う心の あだ桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」からつけました。

時間は有限とわかっていても、ついつい明日で良いか!って思うことが多々あります。一切は、時とともに変転し、とどまることがありません。物も心も人生も、絶えず変化し、常住しないものなんですよ。この世に変化しないものは何一つないなあと、改めて感じたところが今回の創作のきっかけとなりました。

時間は有限、わかっているのに、やっぱりギリギリになってもまだ踊りがカタチになってない今現在...どどどどうしよう...がんばります!これの繰り返し(笑)

われたら すゑは 作舞 寺井美津子

崇徳院の 瀬を早み 岩にせかる 滝川の われてもすゑに 逢はむとぞ思ふ は、私の好きな一首です。川の流れるように たとえ別れてもまた末には逢おうと思う強い気持ち。でも、実際は、別れたら、生きていても逢う道を歩き、違う価値観を持つだろうし、たとえめぐり逢ったとしても、二人でいたときとは違う状況、違う二人が存在するだろうし、...。われたら 末は 逢えぬ?。だからこそ、より強く引き合う思いを二つの流れとして金沢景子さんと踊ります。久しぶりの景子先生とのデュエット、楽しみです。

私の記憶をさがしています。 作舞 向井 華奈子

記憶..不安定で不確かなもの いつかは忘れゆく こぼれおちてゆくもの 彼女は忘れてしまった。自分の名前も家族の名前も 隣にいた人の記憶もなくなってしまった。好きだったもの 嫌いだったもの 好きな花の名前も...ひとつずつ やがて さがしているものが自分の記憶であることすら忘れてしまう。

彼女のそばにいる人々はそんな彼女をみて悲しむであろう...でも この世界の悲しみも苦しみも同時に忘れていく彼女はもう悲しくない!...と願いたい。

わたしのpieceたち 作舞 菊本千永

「あ!わたしがない!」という踊りです。わたしの前を生きた人たちとわたしの後を生きていく人たち、かぎりない人との重なりグラデーションの中で一番濃い部分が「わたし」に該当するように思います。わたしというものを考えれば考えるほど人との境界線がぼやけて、わたしとあなたを区別するものがなくなっていってしまう...。確固たるわたしって、ないんです。

桜 咲くころ 作舞 平岡愛理

桜咲くころ、幼稚園や保育園に行っていた子どもは小学校へ。小学校に行っていた子どもは中学校へ。皆、一步一步前へ進みます。小学生の頃、学校の桜の木の周りを友達とぐるぐるまわりながら「いちねんせいになったーら...!」と「いちねんせい」を「にねんせい」「ごねんせい」と替え、よく歌っていました。私は20歳になり、また桜が咲く季節が近づいてきます。大人になった自分は父や母の様に自分の進む道を堂々と生きて行かなければならない。一步一步と20代30代とこれから過ぎて行く自分を、この桜の木が見守ってくれていると信じ、両親の好きなギタリストの曲にのせ踊ります。

Lost 作舞 谷岡亮

帰ってきました、2年ぶり!!久しぶりの舞台でテンション ff (フォルティッシモ)です!今回ご覧に入れる作品『LOST』は、題名のとおり「喪失」をテーマにしており、作品中では主に行き先・指針の喪失に焦点を置いております。LOSTしてしまったもの、そしてLOSTしたことで見えてきたLOSTしなかったもの...そういったことを表現できればと思っています。2年間たつぷりと熟成した鬱憤を爆発させ、さらにヴァージョンアップした暴れっつぷりをお楽しみください。

ちなみに、例によってドタバタと大きな音を出しながら踊ると思いますが、決して踊ってる本人にはダメージはありません。音だけです。安心してご覧ください。

探す 作舞 藤田佳代

- ・ 落ち葉を
- ・ 波しぶきを
- ・ 旅立った人々の面差しを

死がおまへの戸を叩く日におまえは何を捧げるつもりか(タゴール 死生の詩)と言う文章を前にしてわたしは涙をとめることができませんでした。

今後何年生きるかわかりませんが、せめてひとつだけでもこれを創りましたと差し出せるものをお願いしつつ、いま奮闘中です。

こうべ全国洋舞コンクール 2013年4月28日(日) 神戸文化ホール

出演 菊原麻理奈「アロー いまどこにいますか」 藤井花名「きょう たんぽぽが咲いた!」